

令和3年度

七宗町立神淵小学校



校報 No.10



かぶち



令和3年12月21日

体験を通して学ぶ大切さ

校長 木村 正男

8月末から始まった2学期の生活。一年の中で一番長い学校生活でしたが、大過なく終えることができました。スタート時は、緊急事態宣言が出ていたので制限のある生活でしたが、10月からは制限も緩和され、様々な活動が始まっていきました。主なものを以下に記します。

＜2学期に実施した主な体験活動＞

- ・運動会 ・関研修 ・名古屋研修 ・百年公園散策 ・車工場見学 ・サンホーム七宗訪問 ・虫学習
- ・町探検（龍門寺、給食センター、公民館、駐在所、JA、郵便局など） ・消防署見学 ・小売店見学
- ・駐在所見学 ・ゴミ処理場見学 ・工芸博物館見学 ・川の観察 ・森林教室 ・繭の糸引き ・薪割り
- ・第二保育園児との交流 ・上麻生小児童との交流 ・芸術（演劇）鑑賞 ・繭人形作り ・篠笛演奏
- ・木材パズル作成 ・太鼓演奏（鑑賞） ・山登り（天王山、岳山） ・4校合同特別支援学級交流会
- ・タブレットPCによる他校との交流

どれをとっても貴重な体験であり、大きな学びにつながりました。自分もいくつかの活動に参加したり見守ったりしてきましたが、

「へーなるほど」 「えーそうなの」 「うわーやったよ」 「あーあ、しまったな」

などと体験を通して子どもたちの心が揺れる場面を何度も見てきました。最初は興味が少なそうに始める様子があっても、途中から目をキラキラさせて集中する場面も見てきました。このように心が揺れる思いをしながら学ぶことは、とても強い印象が残り学びは深まると言われています。コロナ禍にありながらも、このような生活を送ることができて、本当に良かったと思います。これらの活動は、本校職員だけではなく、保護者の皆様をはじめ地域や関係機関の皆様のご協力があったからこそ成立させることができました。本当にありがとうございました。

また、体験的な学びは上記内容だけではなく、日々の授業においても重要です。本校では、教科の学習や道徳、特別活動、総合的な学習の時間などあらゆる場面でも体験的に学ぶ機会を取り入れることで、心が揺れる思いをしながら学ぶように工夫してきています。特に本年度から本格的に導入したタブレットPCを活用することで、より体験的な学びを展開しやすくしてきています。職員一丸となって、こちらも継続して取り組んでいきたいと考えます。3学期もご理解ご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。



伊深小学校の2年生と交流授業をする様子